

K S K Q

エヌピーオー

NPOちゅうぶ 通信

つうしん

ねん がつごう
2024年8月号



By Akie&Ayu

きしだしゅしょう	ゆうせいひがいしゃ	しゃざい
岸田首相	優生被害者へ謝罪	
きようせいふにん	げんこく	しゅしょうしゃざい
強制不妊	原告に首相謝罪	新聞
こいずみほうそう	きゅうゆうせいほ	こげんこく
小泉法相	旧優生保護原告らに謝罪	ニュース
ゆうせいほ	こほう	うもんだいぜんめんかいけつようきゅうしよ
優生保護法問題全面解決要求書		
ほどろ	しゃどう	だんさ
歩道と車道の段差に関する意見交換会開催		
なんば	おにごっこ	セブン
なんば	おにごっこ	10.5
なんば	おにごっこ	チラシ
バリアフリー	えんげきさい	9.15~16
バリアフリー	演劇祭	チラシ
いまがわ	よせ	め
今川ちゅうぶ寄席	目で聴く落語	9.22
の	はんとうじしん	ほきん
能登半島地震募金活動をしています		来て！

かいすいよく	うみき	かくほうこく
オニたちの海水浴	24	海企画報告
ちゅうぶ	を語る	事務局
ちゅうぶを語る	事務局	中野陽介さん
や	た	きたしやうがっこう
矢田北小学校6年生との交流授業報告		
じぶん	おも	の
自分の想いを乗せて走らそう	ミニ	四駆
ナビゲーション		
なつ	の	カラオケ
夏のカラオケ		
ひろこ	へ	や
寛子の部屋		
きようりよく	かいひ	
協力会費	カンパ	
へんしゅうこうき		
編集後記		

岸田首相 優生被害者に謝罪

除斥期間の主張を取り下げ 全訴訟和解へ

優生思想 差別を根絶する取り組みを約束

7月17日岸田首相が優生保護法問題の被害者と面談し、謝罪した。ちゅうぶから、まつくら ほりが参加した。首相は、一人ひとりに、深く深く謝罪すると丁寧に謝った。

7月3日の最高裁の判決はすべての被害者を救うことのできる道を拓くもので画期的だった。そして、首相が謝罪をするという場面、本当に歴史が動く瞬間へ立ち会っているという感動があった。

原告が一人一人発言された。6年半にも渡る長い闘いの苦勞、6人の方が勝利を聴くこともなく無念の思いで亡くなった。これから全面救済に力を尽くしてほしいなどの発言があった。

東京原告 北さん)国としてしっかり責任をとってほしい。無念の思いで生きたくない人も多いと思う。その人たちに謝ってほしい。

兵庫原告 小林さん)長い間我慢ばかりしてきた。どうか聾者の苦しい人生を理解してほしい。国の責任で差別的な社会をつくってほしい。

愛知原告 尾上さん)差別的な社会をどうか広めてほしい、新しい法律を作っていたきたい。心に蓋をしたままの人がたくさんいる。その人たちも考えてほしい。



優生連の共同代表 藤井克徳さんから、「なぜ違憲な法律が生まれ、半世紀続いたのか、第三者性を担保して検証してほしい。早期の全面解決を求める。」とコメントがあった。

そして、岸田首相は最後の挨拶で、①除斥期間の主張を取下げ、すべての訴訟について和解する、②新しい補償の仕組みを創設する(幅広い救済、配偶者も範囲に含む、補償額について確定判決を踏まえ検討)、③周知徹底の在り方について検討する、④事実と再発防止の検証を行う、⑤優生思想、障害者への偏見・差別の根絶(教育・啓発を含む)に向けて全庁で取り組みを構築すると約束した。

旧優生保護法により、強制不妊手術2万5000件、人工妊娠中絶5万9000件、合計8万4000件もの手術が行われた。訴訟に提起できた人は39名、一時金支給法で認定された人は1119名にとどまる。

差別によって沈黙を強いられてきた人の早急な救済が必要である。



全国優生連、全国弁護士は、①基本合意の締結、訴訟全件の早期和解に向けて全力で取り組むと共に、②補償新法の創設に向けて、議連、関係各省庁と協議を進めていると聞く。

大阪でも、知事の謝罪、被害者の掘り起こし調査、救済への支援について、要望活動を行う予定である。(文責:堀)

強制不妊原告に首相謝罪

「除斥期間」主張を撤回



原告らと面会し、頭を下げる岸田文雄首相（右端）
＝17日午後4時15分、首相官邸、岩下毅撮影

■首相が原告らに「約束」したこと

- ◆「除斥期間」主張撤回、係争中の訴訟の和解
- ◆訴訟を起こしていない人にも補償を検討
- ◆本人に加え配偶者の補償も検討
- ◆判決を踏まえ十分かつ適正な賠償額を設定
- ◆補償に際し周知徹底のあり方を検討
- ◆客観的検証実施の検討
- ◆偏見、差別の根絶に向けた教育・啓発の強化のため全庁による新体制を構築
- ◆関係府省と被害者らの継続的な協議の場設定

「政府の責任 極めて重大」

首相が除斥期間の主張撤回を表明したことで、多くの訴訟は和解に進むとみられる。政府による救済がようやく実現へ動き始めた。

首相官邸にはこの日、原告や家族、弁護士ら約130人が訪れた。首相は冒頭「旧優生保護法に基づく施策によって（旧法廃止までの）約48年間、少なくとも約2万5千人もの方々が不妊手術という重大な被害を受けたに至ったことは痛恨の

旧優生保護法（1948～96年、旧法）下で障害がある人たちに不妊手術を強制したのは違憲と断じた最高裁判決を受け、岸田文雄首相は17日、原告らと首相官邸で面会し、「政府を代表して謝罪を申し上げます」と述べた。係争中の訴訟について、不法行為から20年で賠償請求権が消滅する「除斥期間」の適用を求めてきた国の主張を取り下げる考えも表明した。▼3面＝救済へ新法焦点

し、早ければ秋の臨時国会で関連する議員立法の成立を図る方向だ。首相との面会で、16歳の時に説明なく不妊手術を受けた飯塚淳子さん（仮名、70代）は、「希望の光が見えてきたが、私の人生は返ってこない。心の底から謝罪し、心ある解決をしてほしい」と訴えた。

小泉法相 旧優生保護法原告らに謝罪「差別や偏見根絶へ対策」

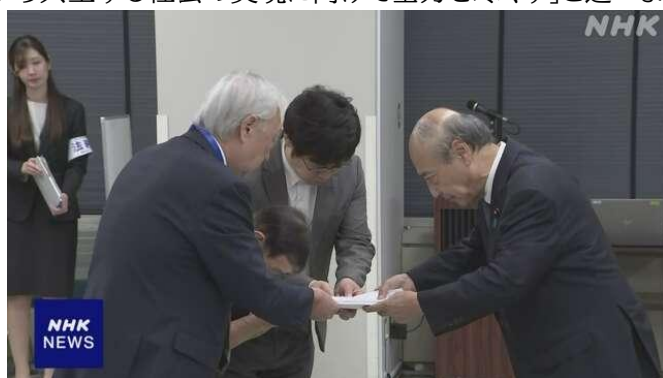
エヌエイチケイ NHK2024年8月2日 19時27分

小泉法務大臣は、旧優生保護法をめぐる裁判の原告らと面会し、政府として謝罪した上で、法務省が先頭に立って、差別や偏見を根絶する恒久的な対策を打ち出していく考えを示しました。

旧優生保護法は憲法違反だったとする最高裁判所の判決を受けて、小泉法務大臣は 2日、法務省で原告や関係者およそ 90人と面会しました。

冒頭、小泉大臣は「政府の責任は極めて重大で、多くの方々が心身に多大な苦痛を受けてきたことを真摯(しんし)に反省し、心から深く謝罪する」と述べました。

その上で、「すべての国民が病気や障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現に向けて全力を尽くす」と述べました。



そして原告らから、すべての被害者への速やかな補償や、差別や偏見の根絶に向けた教育・啓発の実施などを求める要求書を受け取りました。

小泉大臣は、およそ 2時間にわたって被害者らの悲痛な訴えに耳を傾けたあと「法務省は大きな過ちを犯した責任を負っているので、先頭に立って政府を引っ張り、差別や偏見を根絶する恒久的な対策を打ち出していく」と述べました。

原告「解決が遅れ苦しんだ」

面談に参加した原告からは、国が責任を認めず解決が遅れたことで苦しんだと訴える声が上がりました。

25年以上前から被害を訴え続けてきた宮城県に住む飯塚淳子さん(仮名)は、「国はなぜもっと早く責任を認めることができなかったのですか。最高裁でいい判決が出てやっと希望の光が見えてきましたが、私の人生は返ってきません。私が長い間どれだけつらい思いで生きてきたか、分かっていたきたいです」と時折、声を詰まらせながら訴えていました。

福岡県の朝倉典子さん(仮名)は、不妊手術を受けさせられた夫の彰さん(仮名)が裁判の途中で亡くなったことについて「子どもを産めないことは誰にも言えず、妻の私も夫と同じ苦しみを持ち続けてきました。裁判をやりたかった夫は亡くなり、勝訴が決まるまで一緒に闘いたかったです」と話しました。

弁護士「各地の訴訟で一日も早い解決を」

原告と弁護士は、小泉法務大臣との面会のあと都内で会見を開きました。

宮城県に住む飯塚淳子さん(仮名)は「言いたいことは少し言えたかなと思います。謝罪してもらってよかったと思いますが、年をとっているのでも、早く解決に向かってほしい」と話していました。

東京に住む北三郎さん(仮名)は「大臣に謝罪してもらっても、やっぱり納得できません。68年間のつらい思いで消えるわけではありません。ここに来ることができなかった 2万5000人の被害者がいるので、補償の全面解決と、差別の解消をお願いしたい」と話していました。

東京弁護団の関根直人 弁護士は「法務大臣のきょうの発言と謝罪を受けて、国には各地の訴訟で一日も早い解決に向けて動いてもらいたい」と話していました。

さいこうさいだいほうていはんけつ う
最高裁大法廷判決を受けての
ゆうせいほ ごほう もんだい ぜんめんかいけつようきゅうしょ
優生保護法問題の全面解決要求書

ゆうせいほ ごほう ひが い ぜんこくげんこくだん
優生保護法被害全国原告団
ゆうせいほ ごほう ひが い ぜんこくべんこくだん
優生保護法被害全国弁護団
ゆうせいほ ごほう もんだい ぜんめんかいけつ ぜんこくれんらくかい ゆうせいれん
優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会(優生連)

2024 (令和6) 年7月3日の最高裁判決を受け、優生保護法問題の全面解決のため、
すみ やかに 以下 の 対応 を 行 う こと を 要求 します。

だい 1 せいふ こっかい しゃいぶおと けついひようめい
第1 政府・国会による謝罪及び決意表明

1 ないかくそうりだいじん だんわ の 発 出 及 び 今 後 の 対 応 に 向 け た 決 意 表 明

ないかくそうりだいじん だんわ は、こく としての しゃいぶ の 意 を 表 明 する と とも に、こ 今 後 の 対 応 に 向 け た
けつい 決 意 (訴訟 事件 の 早期 解決 及 び 全 被 害 者 の 被 害 回 復 の た め の 法 律 制 定、恒 久 対 策 (被 害 回 復、
さいはつ 再 発 防 止、へんけん 偏 見 差 別 の 根 絶 に 向 け た 諸 施 策 等) を 検 討 する た め の 協 議 の 場 の 設 置 等) を 対 外 的
に 表 明 する こと

2 こっかい しゃいぶ けつぎ
2 国会における謝罪決議

こっかい 国会 として、あらためて 原告 ら 及 び 全 被 害 者 に 対 し 謝 罪 を 行 う こと

だい 2 ぜんひが いしゆ たい ひが い つぐな いた いち にち ばい ばいしやう ぼしやう じつし
第2 全被害者に対する被害を償うに足りる一日も早い賠償・補償の実施

1 しょう しょう かいけつ たい 基本 合 意 の 締 結

しやう 所 管 庁 (こども 家 庭 庁) 担 当 大 臣 ・ 長 官 が、ゆうせいほ ごほう ひが い ぜんこくげんこくだん べんご だん と の 間 で、
しょう 訴訟 の 全 面 解 決 に 向 け た 基 本 合 意 を 締 結 す べ く、ただ 直 ち に 協 議 を 行 う こと

2 ぜんひが いしゆ たい ひが い つぐな いた ぼしやう ばう せい せい たい
2 全被害者に対する被害を償うに足りる補償法の制定

ぜんひが いしゆ 全 被 害 者 に 対 する 被 害 を 償 う た め の 補 償 法 を す 速 や か に 制 定 する こと

3 ひが いしゆ じやう ばう しやう ち てつ たい
3 被害者への情報の周知の徹底

ぜんひが いしゆ 全 被 害 者 へ の 補 償 を 実 現 す べ く、調 査、広 報、周 知 (個 別 通 知 を 含 む) 等 を 徹 底 する こと

だい 3 けうきう たいさく じつし
第3 恒久対策の実施

1 しんそう けいめい さいはつ たい けんしやう じつし
1 真相究明、再発防止のための検証の実施

に 二 度 と 同 じ 過 ち を 繰 り 返 さ な い と とも に、こ 次 項 の 施 策 を 推 進 する た め、被 害 当 事 者 団 体、
べんご だん およ だいい 三 者 から 構 成 さ れ る 機 関 に よ り、(一 時 金 支 給 法 第 2 1 条 に 基 づ く「調 査」に 止
ま ら な い) 旧 優 生 保 護 法 に 基 づ き 推 進 さ れ た 優 生 施 策 及 び 当 該 施 策 の 社 会 へ の 影 響 等 を 含 む
「検 証」 (提 言 を 含 む) を 実 施 する こと

2 へんけん さいはつ に む け た 立 法 措 置 及 び 教 育 等 の 施 策 の 推 進

ゆうせい 思 想 及 び 障 害 者 に 対 する 偏 見 差 別 の 根 絶 に 向 け、立 法 措 置 及 び 教 育 ・ 啓 発 等 の 施 策 を
実 施 する こと

3 けいぞく たい 協 議 の 場 の 設 置

被 害 の 回 復、ゆうせい 思 想 及 び 障 害 者 に 対 する 偏 見 差 別 の 根 絶 に 向 け た 施 策 の 検 討 な ど、優 生
保 護 法 問 題 の 解 決 の た め の 諸 課 題 に つ い て、優 生 保 護 法 被 害 全 国 原 告 団 ・ 弁 護 団 及 び 関 係 者
(優 生 連 等) と、関 係 各 省 庁 と の 継 続 的 な 協 議 の 場 を 設 置 する こと

歩道と車道の段差に関する意見交換会 開催

これまでの経過

ちゅうぶでは、歩道と車道の段差の問題について取り組んできました。

歩道の段差は、国土交通省の基準により標準2cmと決まっています。これは、車いすでも支障の少ない段差で、かつ、視覚障害者が認識できる段差という考え方です。しかし、工事の状況によっては、2.5cm以上～4cm近くの段差も多く発生しているの、車いす障害者にとっては危険な状況が続いてます。

特に、近年、新しく工事したところの段差が高くなっている傾向が顕著になってきたので、大阪市とも話し合いを続けてきました。そして、現在、実施中の大阪市の基本構想においても、天王寺、新大阪、梅田、なんばの各地区のどこにも危険な段差があることを、ちゅうぶの段差戦隊ジメンジャーが調査し、基本構想での解決を求めてきました。具体的には、視覚障害者、車いす障害者の双方にとって利用しやすい段差(縁石の形状)を検討できる場を設定するように強く、意見反映してきました。

基本構想で検討を約束し、検討会(意見交換会)を開催してくれた

大阪市は、昨年度末に検討の場を作ることを約束し、24年7月8日に第1回検討会(意見交換会)を開催しました。

検討会の構成としては、視覚障害者4名(弱視、全盲)、車いす4名(手動、簡易電動、大型電動)、日本歩行訓練士会1名、障害者団体支援者2名、行政(道路課4名、障がい福祉課1名)という陣容です。

検討会では、大阪市の本気を感じました。課長以下の担当ライン全員が出席いただき、国内、国外の実態を調査したデータを用いての検討を行うことができました。

段差構造が圧倒的に多い(79自治体)、でもスロープも結構ある(32自治体)

規則では、標準の基本的な構造は2cmの段差ですが、障害者の意見を聞き、地方の実情に応じて工夫ができることになっています。大阪市は、これを類型化して、①段差構造(大阪市、京都市など)、②スロープ構造(兵庫県、東京都板橋区、佐賀県など)、③段差とスロープの併用:通行帯の分離(品川区、熊谷市等)に分類し、メリットや課題を整理しました。

歩道と車道の段差に関する意見交換会

第1回ワーキング

大阪市

論点1:国内外事例の共有

- 国内においては、“移動等円滑化ガイドライン”で示されている「2cm段差」に準拠している自治体が過半数を占めています
- 2cm段差でない自治体及び海外事例(先進国)を調査した結果、3類型でした
類型①: 段差構造
類型②: スロープ構造
類型③: 段差とスロープの併用構造

類型	イメージ図	代表自治体名	国内自治体数	海外国数
段差構造 (ガイドライン準拠2cm、 段差縮小1cm、横斜段差、 段差+スロープ)		大阪市、岡山市、京都府	79	6
スロープ構造 (スロープ、 凸/凹/凹凸付きスロープ)		兵庫県、板橋区、佐賀市	32	7
段差とスロープの 併用構造 (通行帯の分離併設、切り欠き併設)		品川区、熊谷市、スウェーデン	9	2

※詳細は資料集に記載

段差とスロープの併用

(通行帯の分離、切り欠

き構造)は困難

段差を切り欠くなどして、一部をスロープ化する構造は、ねらった部分を使ってうまく歩行できると限らないので、非現実的という意見が多かったです。


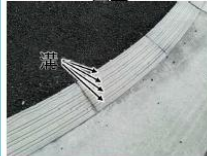


類型①：段差構造



	ガイドライン準拠 (2cm段差)	段差縮小 (1cm段差)	傾斜段差	段差+スロープ
大阪市		京都市 	東京都中央区 	土浦市
構造	縁端高さ2cm 背面高さ2cm	縁端高さ1cm 背面高さ1cm	縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配50%	縁端高さ1cm 背面高さ3cm 勾配10%
表面加工	—	—	—	—

メリット：ある程度の段差があると視覚障がい者が歩車道境界を認識しやすい
普及率が高い縁石であるため、安価に施工可能(2cm,1cm段差の場合)

デメリット：段差が大きいと車いす利用者にとって歩道乗り上げが困難
背面高さが1cmや3cmだと歩道全体の勾配改修が必要となる

類型②：スロープ構造

スロープ		凹凸付きスロープ	
佐賀市		兵庫県	
			
構造	縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配15%	構造	縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配12.5%
表面加工	滑り止め加工	表面加工	深さ3mm横溝(8列)

板橋区	
	
構造	縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配13.3%
表面加工	高さ5mm突起(3列)

メリット：車いす利用者にとって歩道乗り上げが容易

デメリット：単にスロープ化したものは視覚障がい者が歩車道境界を認識するのに困難
突起(高耐久性ゴム製)付きスロープは製品が高価である
※車両の頻繁な乗入がなければ突起(高耐久ゴム製)の耐久性は問題なし(メーカーヒアリング)

類型③：段差とスロープの併設構造

	通行帯の分離併設	切り欠き併設
品川区		熊谷市
構造	一部の歩車道境界ブロックをスロープ構造のブロックに置き換え	車椅子のキャスター幅に合わせてスロープ状に切り欠いている
表面加工	—	スロープ部両端を着色

メリット：車いす利用者と視覚障がい者の両者に必要な機能を併せ持つ

デメリット：「通行帯の分離併設」は、歩行者の量等が多いとスロープ部まで行きづらい場合もあり、車いす利用者等にとって使いづらい場合もある。
「切り欠き併設」は、車いす(大人用と子供用等)とベビーカーのように車輪幅が異なると、使いづらい場合がある。
車いす利用者と視覚障がい者の動線を分けるため、誘導ブロックの再設置が必要

段差の構造だけでなく、材質、色などのトータルが大事

視覚障がい者にとって、段差だけでなく、足裏で感じる道路の材質の違いや、段やスロープの突起の形状、弱視者にとっては、色の違いなど、トータルが大事という意見が多かったです。

車いすのキャスターのひっかかりや勾配

東京都中央区の勾配は50%ときついたために車いすがバウンドするような危険を感じるという感想もありました。また、わかりやすくする突起は車いすのキャスターにひっかからないか心配も示されました。

視覚障がい者、車いす障がい者が一緒に検証会を実施

次回には、スロープの勾配の違いや突起の形状の違い、材質の違いなどを、みんなで検証会を実施する予定となりました。

また、大阪市からは、まず、基本構想の対象エリアの主要な部分について、結論を踏まえて改修することを旨とするという考え方が示されました。

まぢは やつぱり おもしろい
なんば おにごっこ
なんば・ミナミの バリアフリー を みつけよう！

2024
10.5 Sat.
10:00～16:00

**インクル・
ジョインズ**
-失われた〇〇を探せ！-

高島屋とマルイの間にある なんば広場に集合せよ！

2019年から中断されてきた【なんばおにごっこ】
が帰ってきた！

コロナ禍の間、更にバリアフリーになったなんば・
ミナミ。新しいエレベーターやスロープも体験し
ながらポイントを回って、最後はリバープレイス
(なんばハッチ) ではじけよう！

参加費：500円



会いに
きてね！

千日前商店街
マスコットキャラクター みにやみん



- 主催：なんばおにごっこ実行委員会 連絡先：TEL：06-4703-3740 / FAX06-6628-0271 (NPO法人ちゅうぶ)
- 共催：千日前商店街振興組合 / 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議 (障大連)
- 後援：道頓堀商店会 / 心斎橋筋商店街振興組合 / 戎橋商店街振興組合 / 宗右衛門町商店街振興組合 /
千日前道具屋筋商店街振興組合 / 道頓堀商店街振興組合 / 大阪市中央区商店会連合組合 / 難波センター街商店街振興組合

権藤説子 PRESENTS 誰もが楽しめる
バリアフリー演劇祭2024 IN OSAKA

字幕、音声ガイド、舞台手話通訳を付し、あらゆる人が楽しめるバリアフリー演劇です。

誰もが、

【1日目(15日)】

11:00 受付
11:30 舞台説明
11:50 開会式 あいさつ
12:00 オープニングアクト
うたごえ喫茶 【ずまいるクラブ】
12:30 劇団夢屋公演
【妖怪バリアーをやっつけろ!】
13:10 休憩
14:10 東京演劇集団 風公演
【ヘレン・ケラー】
16:40 閉会あいさつ

【2日目(16日)】

10:00 受付
10:30 舞台説明
10:50 開会式 あいさつ
11:00 オープニングアクト
ダンス 【ONE TRIBE】
11:15 ばあとなあ劇団公演
【ももじろう】
11:45 休憩
13:00 東京演劇集団 風公演
【ヘレン・ケラー】
15:30 閉会あいさつ

入場
無料

【鑑賞サポート】

- 舞台上での手話通訳
- 舞台背景にバリアフリー
日本語字幕
- ライブ音声ガイド
- 舞台説明あり
- 事前資料貸し出し

夢中になれる

【妖怪バリアーをやっつけろ!】
劇団夢屋

【ももじろう】
ばあとなあ劇団

2024年 9月 15日(日) 16日(月祝)
森ノ宮医療大学体育館 (大阪市住之江区南港北1-26-16)

※各日のタイムスケジュールは裏面を参照してください

【主催】第2回バリアフリー演劇祭実行委員会

【共催】OSAKA IL7 一般社団法人 東京演劇集団風研究所



t ニュートラム
【コスモスクエア】
【トレードセンター前駅】より徒歩5分

目で聴く落語

～聴こえない人も、聴こえる人も、楽しんで～

第2回 今川ちゅうぶ寄席

寄席芸人とお笑い福祉士の競演！



笑福亭學光



桂八十助



豊来家大治朗

要約筆記と
AI音声認識による
字幕つき



出演

お笑い福祉士
社福亭モーリー
介護しない亭しぶ柿
湯里亭ペコペコ

ペペロンチーノ合田

桂 八十助 落 語

豊来家大治朗 太神楽

笑福亭學光 落 語

日時 2024年 9月22日 〈日・祝〉
14:00～16:00 (開場13:30)

場所 NPOちゅうぶ 4階ホール
大阪市東住吉区田辺5-5-20

料金 1,000円 (介助者無料)

要参加申し込み(定員50人)

会場準備のため、申し込みフォーム(右のQRコードから)か、下記のNPO法人ちゅうぶまでお申し込みをお願いします。

※申し込みしめきり：9月20日(金)



●主催 NPO法人 ちゅうぶ

TEL：06-4703-3740 FAX：06-6628-0271 MAIL：chubu@npochubu.com

の と はんとうじしん ぼ きん かつどう 能登半島地震募金活動をしています！！ 来てください！！

ことし がつ かぜき きん ちゅうしん まいつきいっかい ぼ きん かつどう
今年の3月ぐらいから「ゆめ風基金」が中心となって、毎月一回なんばで募金活動しています。

ちゅうぶの他「出発の仲間の会」「夢宙」などのメンバーと行ってます。なんばの歩行者天国と法善寺横丁
に分かれて、いつも 15人ぐらいで横断幕を広げて活動しています。



ひとりひとり おも
一人一人の思いをメガホンでアピールしています。
かんぱん にほんご えいご ちゅうごくご かんこくご か
看板も日本語、英語、中国語、韓国語で書いていま
す。
にほんじん がいこくじん しょうがいしゃ ひと いろ ひと ぼ きん
日本人や外国人、障害者の人など色んな人が募金
をしてくれます。あつ いちいち はや ふっこう ほ
暑いけど一日でも早く復興して欲しいので、これからも続けていきたいです。



じかいは がつ にち(どようび)
次回は9月28日(土曜日)

14:00~16:00@なんば歩行者天国

良かったら、覗きにきてください



ぶんせき なかむら
(文責:中村)

オニたちの海水浴～ONE LOVE～2024年海企画報告

ぶんせき あお はまだ
文責 青おにスタッフ 濱田

■久しぶりの須磨ビーチに大集合！！



2024年8月1日 赤青おに海企画で、須磨海水浴場に行ってきました。
2020年からのコロナ禍の影響があり、大勢での海水浴はできなかったの
で、久しぶりに大勢で楽しむことができました。車いすユーザー18人、
かいせつ者スタッフ32人 総勢50人で海水浴をしました。2017年からお世話
になっている須磨ビーチプロジェクトさんのご協力があり、安全快適に
海水浴ができました。当日、神戸市の最高気温は35℃、とても暑かったで
すが、赤青おにメンバーは続々とビーチマットから海に突入し何時間も遊
んでいました。ちゅうぶの海企画にははじめて参加する人も多く、フレッシュ
なひと時でした。みんな、イキイキしてパワフルになり、この夏、一番アツい
海になったのではないのでしょうか。

■須磨海浜公園、海水浴場の変化

須磨海浜公園、海水浴場は2024年6月に全面工事がされリニューアルオープン。

赤おに青おにには 2015年あたりから須磨海水浴場を利用して、

須磨海水浴場の変化をみてきたので、リニューアルオープンした須磨海水浴場の状況に注目を
していました。



・Pゲートは撤去され、車いすの移動がスムーズになった。

工事前には設置されていたPゲートが撤去され、迂回距離が解消されました。

Pゲートがある事で、車いすユーザーの海浜公園から海水浴場までの移動距離が

Pゲートを通過できる人と比べ、かなり差がありました。

Pゲートがなくなると、目的地の砂浜まで、スムーズに行けました。ゲート撤去に加え、
砂浜沿いまで渡れるコンクリート舗装された道が増え、車いすユーザーのルートが増えました。



改装工事前にあったPゲート



改装工事後

Pゲートはなくなり通路が広がる

・無料のシャワー更衣室

無料のシャワー、更衣室が男女ともに10室くらい作られていました。

仮設トイレのような見た目だが、中はそれなり広く、シャワーと更衣室に分かれている。

更衣室にシャワーチェアを置けるくらいのスペースはあり、利用できる障害者メンバーもいました。

残念なのは、更衣室までの道が砂浜で、入口には段差があるので、その2点を移乗できる人しか使え
ないところ。大人数の介助者スタッフの着替えにも使うことができて便利でした。

もう少し工夫すれば、もっと多くの人が使えるので、今後に期待。



・多目的トイレが増えた

多目的トイレがある新設の商業施設や貸しスペースができて、須磨海浜公園の多目的トイレの総数が増えました。

■素晴らしい須磨ユニバーサルビーチプロジェクトの人たちと設備

須磨ビーチプロジェクトの皆さんが、当日の朝からビーチマットを設置して下さりました。障害者メンバーの障害状況やニーズに

あわせて、適切な入水方法を提案してもらい、移乗補助、見守り、水中での体位保持など様々なサポートをしてもらいました。最低限の数の介助者だけで行くと、どうしても安全重視になり、遊ぶ余裕がなくなりますが、ビーチプロジェクトの人たちがいたから、障害者メンバーも介助者も存分に、はしゃいで遊べました。ビーチマットプロジェクトとちゅうぶが一体になり、凄いコラボが生まれていました。

◆ユニバーサルビーチのアイテムたち(参考:須磨ビーチプロジェクトHP)

・ビーチマット～砂浜の上に敷くマットで、このマットを敷くと電動車いすでも砂浜を移動できて波打ち際までいけます。ビーチ以外にも、畑や神社(玉砂利)など車いすやベビーカー、バギーなどで通行が可能になるマットです。

・ヒッポキャンブ(水陸両用アウトドア車いす)～ヒッポキャンブは、水陸両用アウトドア車いすです。ユニバーサルビーチにまた、海だけでなく、山登りや、木登りも可能にしてくれる、ユニバーサルアクティビティでは欠かせないアイテムです。

・須磨ユニバーサルビーチベース

夏の海水浴期間、障害のある人が無料で利用可能な更衣施設です。

多目的トイレ・シャワー室・更衣ベッド・更衣スペースがあります。



■須磨海浜公園内設備の充実

今回は休憩スペースとして、須磨ホールという室を借りて、食事や休憩をしました。

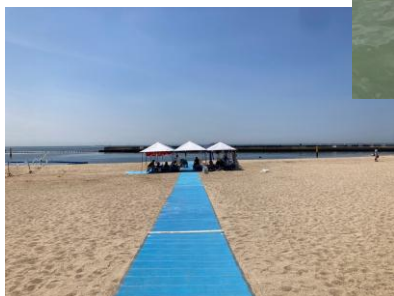
当日は猛暑だったので、エアコンが効いた部屋でクールダウンができました。

多目的トイレもあります。

■海企画担当スタッフ濱田のつぶやき

天候、自然環境はコントロールできず、物理的なバリアは多い。障害者メンバーや介助者の安全を考えると、やらない方向になるのが一般的。私たちも海で事故が起こったら、取り返しがつかない事になることは承知で、海企画に挑んでいます。みんな楽しくなって解放されて、はしゃぎまわります。企画担当スタッフの、安全面と段取りを考えた声かけも、聞いているのやら、聞いていないのやら。自然、人間ともにコントロールできない領域が多く、ドキドキハラハラして疲れます。それでも、海企画の活動を続ける理由は、みんなが過去や普段の生活の繰り返しから解放され、エンパワメントされている姿がみれるからです。私たちの活動にご協力、様々な配慮をしていただいた、須磨ビーチプロジェクトの皆さま、ありがとうございました。参加してくれたみなさんありがとうございました。

■エンパワメントフォト



しゅうねん てんぽう ちゅうぶ 40周年を展望して

これまでのちゅうぶ、これからのちゅうぶを語る

じむきょく りじ
～事務局・理事のインタビュー 第6弾 中野陽介さん(事務局)

堀(編集部):事務局や理事の方に、これまでのちゅうぶを振り返り、ちゅうぶの将来を語っていただくという趣旨です。よろしくお願いします。

理事兼事務局、総務部兼通所という形で、事業所の運営と運動の両方にがっつき取り組んでおられる中野さんならではお話を聞かせていただけるのではと楽しみにしています。

中野さんの採用は何年頃ですか？

卒論でT4作戦要らないから殺していいのか？！

中野:2003年12月ごろで、2000年から作業所のパートで関わっていました。当時、僕は京都の金閣寺近くの大学に行っていました。超就職氷河期で、適当に学生時代を過ごした僕はなかなか就職が決まらず、やりたいこともなくという状況でした。

堀:サークル活動でも障害者との関りはなかったんですか？

中野:軽音楽部でヘビメタをやっていました。当時付き合っていた彼女から、「私とバンド、どっちが大事なの」って言われるほどでした。彼女からは中野くんは卒業したら公務員になるんだよねって言われていて、なんとなく嫌でした。

堀:ちゅうぶとはどういうきっかけで出会ったんですか？

中野:大学の求人掲示板にちゅうぶが載っていたんです。

なぜ、ちゅうぶに目が止まったかと言うと、実は、僕は卒論で「T4作戦」(編集者注:1930年代



後半からドイツで障害者に対して行われた「強制的な安楽死」(虐殺政策)を書きました。当時、脳死になったのに、あらゆる管につながれて、いわゆるスパゲティ状態で生かされることについての賛否として安楽死が話題になり始めた時期でした。僕は西洋史専攻で、第2次世界大戦とナチスドイツとかに興味があって、色々調べていくうちにユダヤ人だけでなく障害者も多数殺されていたことがわかり、そこで出てくるキーワードが安楽死作戦だったんです。安楽死という名のもとに、社会にとって要らないと殺していいのかという問題意識を持っていました。

姉が医療系で、僕も卒論で障害者について考えたこともあって、福祉とかもいいなと思っていました。そこに、中部障害者解放センター(現:ちゅうぶ)の案内に目が止まったんです。

連絡すると富田(譲治)さんが出て、「職員は決まったけど、いろいろ経験できるから、登録ヘルパー

「や作業所パートにならないか」と誘ってくれたんです。議治さんのおかげで、僕はここに居ます。

すてっぷハウスの時代

堀：印象深い出会いとかありましたか？



中野：最初に関わったのは、山本敏晶さんでした。「中野君、荷物扱いって知ってるか」、「ベルトコンベアの荷物のように僕を扱ってくれる人がいいんだ」みたいなことを言うわけです。

「僕は山本さんを荷物扱いなんかしないですよ」と丁寧に返していたんですが、よく聞くと、施設で4人部屋とか、8人部屋とかでずっと適当に扱われていて、作業所の中で、1対1で介護者に指示を出す関係が疲れるというか、しんどかったんやと思います。

中野：鈴木昌守(故人)さんもおられました。重度の脳性麻痺で言語障害がものすごく強かった。50歳ぐらいまで実家暮らしで、お母さんとの子離れ親離れが難しい方でした。最終的には一人暮らしされて、何年か後に彼は癌で亡くなるんですが、すてっぷで看取り支援をしました。

中野：当時は、今のリオの1階が青おに作業所で、2階がすてっぷハウスというグループホームでした。

山本敏晶さん、久保寛子さん、ちょっと前に高田さん、和男さんも住んでいて、そこから、それぞれ自立していきました。

就職氷河期にちゅうぶに

堀：ちゅうぶの職員になったきっかけはなんですか？

中野：職員にならないかと、誘ってくれたことがきっかけです。複数のアルバイトで生計していたので、落ち着きたいという気持ちでした。でも、ちゃんとちゅうぶの採用試験を受けました。面接官は石田さんでした。

堀：当時の試験の競争率はすごかったでしょう。就職氷河期で何十人も面接に来ていた時代でしょう。

中野：そうですね。

でも、石田(事務局 長)さんからは、冗談で、君が入ったのは「くじ引きだよ」なんて、言われました(笑)。作業所パートや介護を一生懸命やったことを評価してくれたのだと思います。

自立支援法の闘い 生活介護の立ち上げ

堀：採用されてから、通所一筋ですか？

中野：2007年ぐらいまで、青おにに居ました。支援費の上限問題とか、自立支援法の問題なんかがありました。

自立支援法になって、生活介護を立ち上げるという話になり、それに関わりました。その後、実地指導もあり、書類の整備を徹底する必要から、2008年からすてっぷで書類管理体制を作りました。その後、おにわ(法人本部の建物)の建設の話があり、建設の自途がたって、通所に戻りました。ちょうど、2011年の実地指導にも対応できて、書類管理体制も自途が立ったかなという感じでした。2012年から通所に戻りました。

堀:その後、総務部と通所のかけもちになったのが、2021年ですね。

いろいろ、大変なときに、大変な部署ばかり歩いてこられた感じですね。大変なことが勃発すると、「おい中野くん」って、呼ばれてきた感じでしょうか。

中野:いやいや、石田さんが一番大変やったと思うし、平沼さんとか、林さんとかいろいろ助け合いながらやりました。

役割と責任に応じた給与体系に

堀:中野さんがちゅうぶに関わってこられて25年近くになりますね。中野さんは特に、力を入れて取り組まれたことはありますか？

中野:当事者の団体は、もともと、「志」を共にする人たちの手弁当の運動で、お金もそんなにありませんでした。社会的に障害者運動が影響力をもって認知されてきたけれど、どう運動や事業を持続させていくのかが課題でした。これまでに辞めていった人が多くて、何人か見送ってきたわけです。

改善するためには、働く環境を良くすることだと思いました。一番は給料ですね。

初めは年齢給だったので、めちゃくちゃ頑張っ

ている30代より、普通に働く50代の方が給料がいいわけです。これは切ないなあって思っ、役割と責任に応じた給与体系にしたいと思いました。

評価制度を入れる議論 アンチ能力主義？

堀:年齢給を変えるというのは、当時はとても大変だったのではないですか？

中野:僕は評価を入れたかったんです。責任と役割に応じた給与ということは、何をやっているのかということで、それに責任がついてきていたので、やったことの評価をきちんとするというにつけるわけです。

しかし、評価を入れるにあたっては、ちゅうぶは、アンチ能力主義でやってきていたので、能力で差をつけるのかという批判はいただきました。

堀:能力主義が健全者社会そのもので、それにアンチを唱えていたのが、大阪青い芝の会であり、友人組織ゴリラですものね。(※編集者注:大阪青い芝の会とゴリラはちゅうぶを生み出した組織)

中野:当時の副代表理事の川嶋雅恵(脳性麻痺の当事者)さんには、だいぶん絞られました。「どういことなの!!」みたいな、喧嘩売っているかという感じですよ。

堀:ゴリラも健全者中心主義によって作られた意識や社会を問い直すべきという運動をやっておられた印象があるのですが、元ゴリラの諸先輩方からの批判はなかったですか？

中野:川嶋さん以外はとくに批判はなかったです。ちゅうぶは、運営を任せきるのが難しい障害者が多かったので、健全者は障害者の指示で動くということでなく、一緒にやってきたという経過があって、それが幸いだと思います。障害者は当事者としての発信力はあるけど、運営的なマネジメント力がちょっと難しかったです。



評価制度は、プロジェクトチームで検討してつくりましたが、川嶋さんにも入っていただきました。いろいろな意見をいただき調整してきたわけですが、年に何回か、怒りでうなされて目覚めることがありました。分かり合えたというより、必要ですと、押し通した感じもあります。

単なる能力評価にしない

堀: 評価制度を作られるのは本当にたいへんだったのですね。何年頃の話ですか。

中野: 2011年ですね。

いろんな議論がありましたが、単にできる・できないという能力評価にならないように、ちゅうぶの理念を理解して、活動しているのかという視点を大事にして評価できるようにしました。

中野: 当時は、それなりに本を読んだり、他団体も見に行ったりして検討したのですが、今となつては、作り直す必要を感じています。

評価項目も多く、運用する上で、かなり重い制度になっているので、もっとシンプルで柔軟性に富んだものにする必要があると思いますが、改革に手がだせていないです。課題の一つです。

組織としての持続力を持つには

中野: それに関連した問題意識では、運動と事業の継続には、組織として持続力をもつ形に整える必要も感じてきました。

堀: 理事会、事務局、総会という意思決定機関、各部門長が各部門を管理するという組織形態はちゅうぶの立ち上がりの時から、整備されていたのですか？

ちゅうぶの組織が拡大していくなかで、心を砕いてこられたことはなんですか？

中野: 意思決定の組織の大枠の形はだいたい最初

からあったと思います。

各部門できちんと意思疎通が取れて機能するというのが大事だと思ってきました。通所では、チーム作りとか、働くうえで健康者職員がまず連携していけるかとか、人間関係の問題ですね。

スタッフで遠足行こうとか、飲み会とか、いろいろしましたが、うまくいかなかったことも多々あります。



みんなが主体的に参加する会議へ

中野: もう一つは会議のやり方です。延々と終わるのだろうという会議が多かったです。障害者の現状の情報交換だけで時間が終わってしまって、課題の検討までいかないという問題でした。

堀: 情報交換も大事だと思いますが、どうやって、会議を改善したのですか？

中野: ファシリテーターやリーダーシップの研修を受けたりして、みんなで取り組みました。会議の目的を定める、情報共有なのか、議論の場なのか、アイデア出しなのかをはっきりさせる。それから会議時間を決めるということをしました。

目的と時間を意識して、漫然と聞いているだけでなく、主体的に会議に参加してもらうと早く終わると思っています。

中野:もう一つは、発言力が強い人が意見を言って、その通りの結論になるのもダメだと思っています。なので、ホワイトボードに、新人の意見もベテランの意見も並列して並べて、どちらがいいのか、みんな確認できるようにしました。空中戦にしないということも心がけています。

障害者運動を広げていく軸としての通所

堀:組織としての持続力を持つということは、法人としての砦をしっかりとするということが他にないと思いますが、一方で、通所は学校交流とか、なんばおにごっこが中心に担ってきています。地域に出て行って、障害者運動を広げていく軸になってくれているのが通所だと思っています。そのあたりの活動で、大事にしてきたことがあれば教えてください。

障害者の生活を伝える学校交流

中野:学校交流は、部落解放運動のつながりで、矢田の地域とずっと交流を大事にしています。以前は、給食を一緒に食べて交流というのをやっていたんですが、惰性になって、食べるだけになってきた時期があります。

もっと、障害者のことを知ってもらいたいと、メン

バーを巻き込んで、講演会とか、障害者の生活を話す企画にしようと思いました。

でも、僕の思いでやっていたので、「当事者主体といいながら、健全者スタッフが出すぎていたのでは?、それは良くない」と思って、メンバーのチーム会議で内容を考えるようにしました。

今は、講演会とか、遊びをテーマに交流したり、松倉さん(通所の聴覚障害をもつスタッフ)が、聴覚障害者の立場で語ったり、いい感じになってきたと思っています。

社会参加のきっかけを作るおにごっこ

中野:おにごっことかは、社会参加のきっかけ作りとしてすごく大事で、開催にあたって、なんばトイレ調査をしたり、障害者が入れるお店を探しに行こうということをしました。

車いすで地下街に降りようと思っても、エレベーターがどこにあるのかわからないという案内表示の課題なんかに気づくことができました。

みんなバリアフリーに関心を持ってくれていいなと思っています。

学生さんに着ぐるみに入ってもらったり、施設に入所している障害者の外出取り組みにもつながったりして、社会とのつながり作りにも意味があったと思います。



こういうイベントを通じて、自分たちの運動を発信していくのは大事ななっています。

バリアだらけを体験しよう

中野：あと、大事に思うのが、コロナで止まった期間はあるけど、海レク。僕と林さんで言い出して、2008年ぐらいから実施しました。ちょっと無茶なこともしよう！！バリアフルなところに行って、車いす障害者も海に入ることを体験しよう！！ということをしました。この取り組みで初めて、海に入ったという障害者も何人もいました。

堀：バリアが多いところに行こうというのは、いいですね。障害者にとっては、事業者運営上のことを考えて、安全第一で、常にバリアフリーな場所で管理されているのは、なんだか施設的ですものね。そういう挑戦をやるスタッフマインドでいよう！！というのは、実際の取り組みの中で作っていているのでしょうか。

中野：スリリングな運動会をやった「おにんピック」とか、バリアだらけの三方五湖に旅行にいった、雑魚寝するとか、秘湯に入ったりもしました。

一緒にちょっとはみ出してみる

堀：そういう体験って、ずっと心に残るし、ちょっとくらいチャレンジングでいいやんと、思えるようになるでしょうね。皆で、はみ出してみるって大事ですよ。そういう取り組みがちゅうぶらしさを作ってきたんじゃないと思いました。

中野：USJでジェットコースターに乗るのも、介護者がやるで！！と思わないと、なかなか乗れない。今でも悔やまれるのは小坪さんとフライングダイナソーに乗りに行って、僕が少し足を痛めていて、最後に小坪さんを持ち上げて乗せるところで、ひっかかってしまって、「この人やっぱり無理ですよ」と、係員に止められてしまって、乗れませんでした。フライングダイナソーを5分間止めて焦

りましたね。

堀：色々挑戦するってことが、障害者の自立支援につながっていますよね。「お利口さんに通所で過ごしました。今日も変わりありません。」って通所と家との行き来だけなら、新たな体験ができないですよ。経験を広げて、「こういう選択肢があるんだ」とか、「これもやりたいって、私も言ってもいいんだ」とか、気づきを得るって大事ですよ。障害者にとって、一緒にみ出してくれる健全者集団っていうのはすごいありがたいと思います。

中野：こずえナイト、木戸ナイト、天神祭りに人が多いからこそ、行くねん！とか、職員もいろいろやってくれているので、ありがたいです。



女性障害者の活性化

堀：自立支援については、通所で、エンパワメント会議とかおにパワとかいろいろされていますが、自立支援の取り組みで、課題に思っておられることはありますか？

中野：女性の障害者が増やせていないのが課題ですね。それと、リオに入るとか、一人暮らししたいとか、そういう女性障害者が出てきてくれるといいなと思います。今ちゅうぶで自立している女性障害者はベテラン層が多いので、経験を若い人に伝えるような取り組みをしてほしいと思います。女性障害者のところをもう少し活性化したいです。

堀：女性障害者はやはり複合差別的なものもあつ

て、親の意識として、女の子やから…そこまでがんばらなくてもいいとか、守られるべき存在やとか、そういうのがどうしてもぬぐい切れない部分があるんじゃないかな。そこで、「私にとっては大事な人生やから、自分で決めさせて」って、言うのが難しい力関係、壁があるように思います。女というのと、障害者と二重の壁。

中野:あると思いますね。箱に入れられている感じ。

堀:障害者だけでなく、スタッフにとっての女性問題もあると思います。社会は、女性には大人しくて従たる存在であることを女性に求めているから、「こんなこと私が決めてもいいのかな」と感じて指示待ちになってしまったり、他の人の意見を求めすぎたり、前に出るのをためらって後ろに隠れたり、差別されている結果、身についてしまっているところが、あるのではないかな。

中野:世代もあるかなと思います。最近では同調圧力とかも世の中では言われているし。

オモロイことと尖ったこと言ってもいいやん

堀:ちゅうぶは、自分らしく自由に生きていこうと思ったら、やっていける風土がありますよね。

中野:そうありたいと思っていますが、努力がなければ、難しいと思っています。

意見が言いやすい環境を作るとか、上司が言うことが通るのでなく、皆が意見を言い合って決めるとか、心理的安全性が保たれながら仕事ができる環境とか、オモロイこととか、尖ったことを言ってもいいやんという雰囲気を作るのは意識しないといけないと思います。

僕はあまり否定をしないようにしています。

人材育成で大事にしていること

堀:組織の活性化の要は人材育成だと思っています。運動しようっていう健康者スタッフが十分育つこ

とがすごく大事やと思うんですね。新人の研修でも通所はとても大事な役割を果たしていただいていると思います。

人材育成で大事にしておられることはなんでしょう

中野:成長の機会として、一つの企画を担当して、しっかりやり切ってもらうとか、ちょっと難しいような旅行も障害者と一緒に苦労しながら乗り切るとか、誰かの自立支援に取り組むとか、そういう機会に力を出してもらうことが大きな学びになると信じています。

白々の障害者の担当は変わりませんが、個別支援計画の担当は、1年ぐらいい同じ人で担当してもらいます。すてっぴ(介護派遣)、ナビ(計画相談)、リオ(グループホーム)の担当者からの情報も収集して、ご家族からおうちでの様子もいろいろお聞きして、連携を取りながら、生活全体を把握して本人の話聞いて考えてくれていると思います。



ちゅうぶのパワーアップ

堀:スタッフのパワーアップ、ちゅうぶの発展という意味では、もっと目指したいこととかありますか？ちゅうぶ40周年の区切りに際して。

中野:ちゅうぶのスローガンは200万回の選択ですが、それが実現できる社会ってどんなものだろう

ね。その語りの中から、新たな活動を作っていきたいです。

自立障害者をもっと増やしていこうとか、障害者とガンガン外出して、旅行に行こうとか、学校交流で関わる学校を増やしていこうとか、自分ごとにできる方針をみんなで創っていきたい。

みずか も 自ら燃える職員を増やす

僕は、オモロイ団体で仕事をしたいと思っているので、自分から燃える職員がたくさんいてくれたらいいなと思っています。

キーワードとしては「自燃型」の人間ですね。「他燃型」もいいのですが、「やりたい！」という人から燃え移されて、やる気になる人が「他燃型」ですね。「不燃型」は少なくなってほしい。

堀：そうですね。素敵ですね。でも、燃えなくても、安定的に存在してくれて、ちゃんと支えになって安心を作ってくれていることも大事ですよ。

中野：そうですね。全員が燃えると火事になって大変ですね。

さんか が た しゅうねんきねん 参加型の40周年記念イベントをしたい

中野：40周年のイベントをしたいですね。それに向けてワークショップを組んでいくとか。

あとは、35周年の時に、濱田君がすごい動画を作ってくれたけれど、40周年も次世代に残せる動画が作れたらいいな。

他団体の人からもアドバイスを頂けるようなワークショップ、参加型のお祭りのようなイベントがいいなと思っています。僕と小坪くんが担当ですが、まだ、頭の中にあるだけの感じです。40周年記念グッズもつくりたいなあ。

堀：ちゅうぶの歌を作るのはどうですか？

中野：うーん、誰も歌ってくれなかったら、困るなあ

(笑)。

たの 楽しくダンスをしながら取り組もう

堀：最後に職員へのエールをお願いします。

中野：運動や事業の取り組みをしていると苦労は多いですが、僕は、「笑いながら、楽しくダンスする」ぐらいの感じでやろう！って伝えたいです。



深刻な問題も、大変な問題も、楽しく取り組みたいいいなと、絶対にうまくいきます！だいたいの問題は、うまくいくように努力したら、なんとかなるものです。うまくいきます。

しんどいことをしんどいと思いながらやると、しんどさだけが残ります。「しんどいことも、楽しくやろう」、「楽しく進んでいきましょう」と伝えたいです。

堀：長時間に渡り、ありがとうございました。40周年イベント、楽しみにしています。

や た き た し ょ う が つ こ う ね ん せ い こ う り ゆ う じ ゅ ぎ ょ う ほ う こ く ／ 矢 田 北 小 学 校 6 年 生 と の 交 流 授 業 報 告 ／

が つ に ち き ん じ か ん め じ か ん か や た き た し ょ う ね ん せ い
7月5日(金)3時間目の時間をお借りして、矢田北小6年生のクラスにおじゃましました。
こ ん かい さ ん か あ か ま す な が さ い き
た。今回参加したのは赤おにの増永と、スタッフ齊城です。

や た き た し ょ う が つ こ う ま い と し が く ね ん こ う り ゆ う よ せ わ
矢田北小学校は、毎年学年ごとに交流に呼んでくださりお世話になっています。

こ ん かい ま す な が
今回、増永さんは
は つ が つ こ う こ う り ゆ う
初の学校交流デビュー
ーでした。

こ う り ゆ う
交流のテーマは
「キャリア教育」と
いうことで、赤おにで
の し ご と ふ く し し ご と
の仕事、福祉の仕事についてお話をさせて
もらいました。



こ こ か ら は と う じ つ し り ょ う
ここからは当日の資料とともに、
かん た ん こ う え ん な い よ う し ょ う か い
簡単に講演の内容をご紹介します
らいます。

ま ず ね ん せ い し ょ う ら い ゆ め
まず、6年生のみなさんに『将来の夢
はありますか?』と問いかけたところ、
た く さ ん の て な ん に ん お し
たくさんの手が上がり、何人かが教えてくれました。



ね ん が つ に ち き ん
2024年7月5日(金)
矢田北小学校6年生×赤おに交流会
や た き た し ょ う が つ こ う ね ん せ い あ か こ う り ゆ う か い

し ご と
ヘルパーの仕事って
なんだろう?

ま す な が の り さ い き も も か
増永典子 齊城桃果

ち な み に ま す な が か ん ご し さ い き
ちなみに増永さんは看護師、齊城は
パティシエになることが当時の夢で
した。

な ぜ げ ん ざ い ふ く し せ か い は た ら
なぜ現在福祉の世界で働いている
のか、そのきっかけの一つである私
が こ こ ろ み わ た し ぼ ん
が子どもの頃にたまたま見たテレビ番

ぐみ はなし
組の話をしました。

そしてなぜヘルパーの仕事が
ひつよう 必要なのか、ヘルパーは具体的に
ぐたいてき
どんなことをするのか（買い物、
か もの
お風呂、あさ み 朝の身だしなみ、ちょうり
調理、
か もの エトセラ どうが 動画やしゃしん
写真をまじ
えてしょうかい
紹介しました。

ちゅうぶでは『200万回の
せんたく 選択』をモットーに、じゅうど
重度の
しょうがい 障害があっても自己選択・
じ こ けつてい 自己決定できるしゃかいづくりをめざ
目指
していますが、しょうがいしゃ 障害者の選択
せいかつ や生活のサポート通して、ヘル
パー自身もみ ち 未知の世界をけいけん
経験す
るというおもしろ
面白さがあるということ
つた
とを伝えました。

こんかい 今回、しょうがく 小学6年生のみなさんにどんな話し方をすれば伝わるかな悩みましたがみなさんが
しんけん 真剣に話を聞いてくれて嬉しかったです。あらた 改めて自分の仕事について見つめなおすよい
きかい 機会となりました。



じぶん おも の はし 自分の想いを乗せて走らせよう！！

よんく こうりゅうかい さんか アットマーク
ミニ四駆 交流会に参加 @ ぱあとなあ

7月19日にミニ四駆交流会が「ぱあとなあ」でありました。

中村は子供の時にやったきりで大人になってから触れたことはありませんでした。

ミニ四駆を持ってなかったメンバーの青木君、ちゅうぶへの就職を希望している杉原君と一緒になんばエディオンに購入に行きました。交流会前日に組み立てて、細かい作業で大変でした。

交流会では、久しぶりに「ぱあとなあ」や「夢宙センター」のメンバーと会いました。



ミニ四駆に詳しい人がたくさんいました。

初心者の中村は、ミニ四駆トークを聞くだけでも面白かったです。

「爆走兄弟レッツ&ゴー」から好きになった人が多かったです。

この日、「ぱあとなあ」ミニ四駆専用コースの初お披露目もあり、メンバーのみならず、ヘルパーや興味ある人全員で楽しめました。

ミニ四駆は自分で改造するのもおもしろいです。

レースはスピード感が早く、コースから脱線して部屋の中を走りまくるミニ四駆もあって白熱しました。

これからもミニ四駆を通して、色々な人と交流したいです。

(文責:中村)





じりつせいかつ
自立生活センター・ナビ
からのお知らせ

ヘルプセンター・あるる研修会

しょうがい りかい
～障害の理解～

みなさん、こんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。今回は、5月30日（木）に行なわれたNPO法人あるる ヘルプセンター・あるる研修会 障害の理解について、山下と障害者活動センター・青おに障害当事者の森園 宙さんと一緒に講師として参加しました。遅くなりましたが、報告したいと思います。

まず最初にNPO法人ちゅうぶのスローガンについての動画を観てもらい、自立生活センター・ナビの役割を説明し、ちゅうぶが今取り組んでいる取り組み（U S J）の不当な差別的対応や段差戦隊ジメンジャー）をお話したあとに、森園さん、山下の生活史を発表させていただきました。質疑応答では「ヘルパーに指示する時に気を付けていることは？」「口もききたくない白や、しんどい時もヘルパーに入ってもらわないといけないと思うのですが、どうやって過ごされるのですか？」「生活介護のメンバー。モチベーションが無い人にはどうアプローチしていますか？」などたくさん質問していただきました。



あか あお かつどう ようす み
赤おにや青おにの活動の様子も見てもらいました。

【研修に参加していただいた方々の感想】

- ・生活介護でも、自由にやりたいことをしているのをすごく感じます。あるに持ち帰って次に生かしていければと思います。
- ・あるしか知らなかったの、特色や知らないことを知れた。
- ・印象的だったのは、メンバーに1対1でスタッフが付いている事。ちゅうぶのやりたいことがそこに集約されていると感じた。あるでもメンバーの声を活かすことにつなげていきたい。
- ・皆さんがポジティブに話されているなと思った。自分のやりたいことができるからかなと思う。生き生きとされていた
- ・みんな手話ができてすごいと思った。メンバー、スタッフみんながコミュニケーションをとれるのがすごいと思った。
- ・40年の重み。支援体制の厚さがすごい。自立までの話を聞いて、自分自身原点に振り返るきっかけになった。ありがとうございました。
- ・すべてが新鮮。はっとしたのは、元気がない状況で介護に入ってほしくないことや、介護のとき待ってほしいという事でした。

【森園さんと山下の感想】

- 改めて研修の講師をする機会はあまりなかったので、とても緊張しました。ちゅうぶのスローガンの200万回の選択は選択やILP（自立生活プログラム）の大切さが改めてわかりました。なかなかこの研修講師をしてみて、感じたことは普段ちゅうぶの中にいると当たり前毎日してる自分で活動を決めて外出したり、作業をしたりすることにあるの方々が驚かれています。自由に活動するって大事だけど、なかなか出来ないことなんだなあと感じました。作業所を案内している時に、あるの方々が手作業のミシンを使っている様子に感動されていました。自分たちのやっている活動を外から意見とか感想を言ってもらえる機会が良かったなあと思います。やっぱり他団体との交流は大事ななあと思います。私もぜひ今度はあるさんに研修に行きたいなあと思いました。
- あるさんとは、段差戦隊ジメンジャー（歩道と車道の段差問題）で関わらせてもらっていましたが、法人の理念や、ちゅうぶの取り組み、生活史をお話させていただくのは初めてでした。みなさん、たくさん質問していただきました。活動内容など、それぞれ違うところもあるし似ているところもあるということが改めてわかりました。これからも、いろんな活動を通じて繋がっていききたいと思いました。ありがとうございました。



なつ 夏のカラオケ

どくしゃ みなさま ひさ
読者の皆様お久しぶりです！菜園日記担当の萩原です！今回は私 が後藤さんを誘っ
てカラオケに行ったことを後藤さんから『このことを通信に書きませんか？』と提案さ
れたので、キーボードを叩いております。久しぶりで 拙 い文 章 になりますがどうか
みなさま ようしゃ
皆様ご容赦ください。

さ がつ か わたし い おも た ごとう さそ いた
去る7月2日に私が『よし！カラオケに行こう！』と思い立って後藤さんをお誘い致し
ました。

ぼしよ あべのてん あべのてんうらぐちで ま
場所はジャンカラ阿倍野店ツタヤ阿倍野店裏口出て間もなく、あべのキューズモールと
ろめんでんしゃ あべのすじ はさ なな む りっち
路面電車が走っている阿倍野筋を挟んで、斜め向かいに立地しています。



ごとう せんきよく わたし こども
後藤さんの選曲センスもなかなかにしゅいものがありまして、サライなどは私の子供

じだい じかん ほうふつ じかん
時代の24時間マラソンを彷彿とさせます。というかもはや24時間マラソンのイメージが

つよ うた じかん おも う つよ かん
あまりにも強すぎてこの歌は24時間マラソンしか思い浮かばないと強く感じました。

わらい
(笑)

なん うた うた わたし ばあい
えっ『あなたは何の歌を歌ったんだ?』って? 私の場合になりますがポルノグラフィ

はまさき とく はまさき わたし がくせいじだい いよう ほど
ティや浜崎あゆみあたりです、特に浜崎あゆみは私の学生時代に異様な程に

だいいりゆうこういた しょくじ かん もう あ
大流行致しました。食事のメニューに関することですが、はっきりと申し上げておい
しかったです。

しょくじ おも こ かた
カラオケの食事=イマイチであんまりおいしくない。という思い込みをおもちの方もた

おも へんけん かた ぜ ひ あし はこ
くさんいらっしゃると思います、そんな偏見をおもちの方は是非カラオケに足を運んで

しょくじ いちどめ あ きんりん
カラオケの食事を一度召し上がってみてください。近隣のちょっとしたファミリーレス

ひつてき あじ かくじつ おも じしん いた
トランに匹敵する味には確実になっていると思います。自信をもってオススメ致しま

ごとう いっしょ い ほんとう たの ば か
す!!後藤さん一緒にカラオケに行けて本当に楽しかったです。この場を借りて

かんしゃもう あ
感謝申し上げます、ありがとうございました!!

はぎはら
(萩原)



ひろこ　へ　や 寛子の部屋

さ　　がつ　　にち　　こんかい　　はぎはらこすえ　　ひっしや　　へ　　や　　あそ　　き
去る7月19日、今回のゲストの萩原 梢 さんが、筆者の部屋に遊びに来てくれました。

これまでも何度か声掛けはしていましたが、諸事情が重なり、なかなかできませんでした。

ようやく実現し、筆者もホッとしています。

ねんれい　　まった　　ちが　　ふたり　　いがい　　きょうつうてん　　ひと　　ぞんじ
年齢も 全 く違う二人、意外な共通点が一つあるのを、みなさんをご存知でしょうか？

それは・・・彼女も筆者も夜間高校出身です。ただ時代が違うので、全てが同じというわけではありませんが。

そんなこともあり、萩原さんのことが気になってはいました。部屋に呼ぼうと思ったのは、彼女も自立を目指しており、少しでも力 になれたらという思いがあったからでした。

とうじつ　　ひろ　　しゅっぱつ　　へ　　や　　いっぷく　　たが　　しつもん　　たの　　す
当日は昼から出発、部屋でまずは一服。お互いに質問しあいながら楽しいひとときを過ごしました。萩原さんからは、ヘルパーの付け方やお金のことなどを聞かれました。筆者からは、グループホームに入居したらどんな生活がしてみたいかを聞きました。

はなし　　き　　ひっしや　　にゅうきょ　　ころ　　おも　　だ　　はぎはら　　たの
話を聞いて、筆者がグループホームに入居した頃を思い出しました。萩原さん、楽しいお話をありがとうございました。（後藤）



2024年7月～8月 スケジュール		
8月28日	水	29日(木) 30日(金) I B U 四天王寺大学・重度訪問介護講座 @四天王寺大学(羽曳野市)
9月6日	金	～7日(土) ちゅうぶ防災一泊企画 @ちゅうぶ事務所(1階、4階予定)
9月15日	日	16日(月祝) バリアフリー演劇祭 @森ノ宮医療大学体育館(コスモスクエア駅すぐ) 劇団「風」他
9月22日	日	今川ちゅうぶ寄席(あで聴く落語) 2: 寄席芸人とお笑い福祉士の競演 14時～16時 @ちゅうぶ4階
9月28日	土	29日(日) ボムハウス嗜痰吸引等3研修(3号研修) @ちゅうぶ
10月5日	土	なんばおにごっこア (インクルジョーンズ!) 10時～16時 @なんばひろは集合 リバープレイス解散

●今年1月に65歳になった。ちゅうぶの定年は超えたが仕事は継続。体力は変らずだが、目は緑内障もあり疲れやすい。パソコン作業に集中したり、本を読むのはつらい、というか元々そんなに読んで無いが、新聞は見出し以外読むのはちょっと根性がある。世間では65歳～高齢者ということでいろんな割引がある。半額、無料が多い。ビールには適用されないが…。今年10月28日から12月14日までの48日間、大阪城天守閣に上がるエレベーターが工事を使えない。代替手段をいろいろ試したがダメで、「階段を4人で担ぐ」案で動きつつある。20年前までは駅にエレベーターなんて無かったので日常の風景でしたが、今では誰も経験していない。大変だが危険性はない。かつては駅員もヘルパーも毎日やっていた。もちろん重い電動車いすなどは無理だが、修学旅行できた障害生だけ天守閣に上がれなくて遠くコースなんて事態は避けたい。あくまで大阪市の事業なのでどうなることやら。ちなみに天守閣入場料は600円ですが、障害者+介護者1名、65歳以上は無料です。10月5日(土)には4年ぶりに、なんばおにごっこ7をやります。コロナ禍で2019年から中断していました。コロナ禍の間に地下街南海がスロープ化されたりしています。楽しみです! (いしだ)

●久しぶりの編集後記。前回から変わったこととして、ついに40歳となった。不惑の年。そして、前厄の年。今年の初詣はあびこ親音にお参りに行った。いまのところ悪いことは起きていない。こういうことを気にしないようで氣にする。40歳となったとしても、特に変わりはない。変わりたいことよりも、変わらないでいたいことは、クリエイティブであり続けたいということ。イベントやものづくりで、小さくとも楽しい、おもしろいものをつくれたらと思う。いま『なんばおにごっこ』のチラシをつくっている。2019年以降の開催だそう。2020年に人職した僕にはどんなイベントか、過去の資料でしか知るすべがない。どんなイベントなのか、いまから楽しみである。まずはいい感じのチラシをつくって、みなさまに楽しんでもらえたらと思う。(うらかた)

●私もとくに50歳を過ぎ悲しいですが、年々心身の衰えを感じる日々を送っております。今年は白内障の手術から始まり、火傷したり、ハチに刺されたり、自転車でも何度も転けたり、あげくには椎間板を悪くし腰痛との付き合いになったり、振り返れば色々な病院へはしごしている…。ある意味当たり年です(笑) 体力も下がると気持ちも下がるという悪循環状態ですが、ポチポチと上げれるよう頑張れー自分!! 話は変わり、私の姉が6月に60歳で定年退職することを選びました。同じ会社で40年以上勤め上げ、退職金をガッポリ?かは知りませんがもらったようです。感慨深いのが、姉が60歳になる日が来るなんて想像していなかったです。それと40年以上同じ会社で働くというのは正直スゴイの一言でリスペクトしております。そもそも姉の方が優秀ですが、姉妹でこんなに違うものかと思ったり思わなかったり(笑) (かわさき)

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】
【自立生活センター・ナビ】
〒546-0042 東住吉区 西今川 2-3-8
でんわ = 06 (6760) 2671
ファックス = 06 (6760) 2672



【障害者活動センター 赤おに】
〒546-0031 東住吉区 田辺 5-6-10
でんわ = 06 (6623) 7300
ファックス = 06 (6657) 5010

【グループホーム・リオ】
〒546-0032 東住吉区 東田辺
2-21-21
でんわ&ファックス
= 06 (6608) 5244
【ヘルプセンター・すてっぷ】
NPO法人ちゅうぶ 2階
でんわ = 06 (4703) 3741
ファックス = 06 (6628) 0271
【障害者活動センター 青おに】
NPO法人ちゅうぶ 1階
でんわ = 06 (4703) 3742
ファックス = 06 (4703) 3743

編集: 特定非営利活動法人
エヌピーオーほうじん
【NPO法人 ちゅうぶ】



〒546-0031
おおさかしひがしあすみくたなべ
大阪市東住吉区田辺5-5-20
でんわ=06 (4703) 3740
FAX=06 (6628) 0271
ホームページ=https://npochubu.com/
メールアドレス=chubu@npochubu.com
ゆうびんふりこみこうざ
郵便振込口座: 00960-6-313427
つうしん ていきこうどくりょう
通信 定期購読料 = 1年間2,000円